



2023 年も後半に入り、ようやく長いパンデミックを抜け社会経済も回復の兆しを見せています。7 月 10 日には静岡県側でも富士山の山開きを迎え、三島から富士山を訪れる外国人観光客がこれまで以上に新幹線やバス停にも溢れることと思います。是非、安心・安全に旅を楽しんでいただけるよう願っています。

そのような中、7 月 21 日からいよいよ高速乗合バス「三島羽田シャトル」の運行が開始されます。このバスは、伊豆箱根バス、東海バス、WILLER EXPRESS (東京) の 3 社による共同運行で、毎日 3 往復、三島大場～三島駅南口・北口～横浜駅(YCAT)～羽田空港～新木場駅を運行します。今年 1 月に開業した「羽田エアポートガーデン バスターミナル」へ乗り入れることで乗り換えなしに空港まで行くことが出来るほか、途中の横浜駅や終点・新木場駅でも乗り降りが可能なので、空港利用以外の観光・ビジネス等にも大変利用しやすくなっています。市民の皆様はじめ国内外の多くの方にご利用いただき地域の活性化につながるよう期待しています。

梅雨開けから夏本番となるこの時期、大雨や台風等ますます災害の発生が増えてくることが予想されます。緊急避難に備えた事前の準備はできているでしょうか。地域の自主防災組織の呼びかけに応えていざという時の行動を身につけておくとともに、日頃から隣近所と声を掛け合えるお付き合いを心がけてください。

三島市長 豊岡 武士

三島馬鈴薯の季節がやってきた！ みしまコロッケ 誕生 15 周年

～ 7 月 1 日は三島馬鈴薯の日です ～

丁寧な収穫、風乾貯蔵による熟成、厳格な品質管理により、きれいな肌目と甘みのある三島馬鈴薯は市場でも高い評価を受け、国の GI (地理的表示) 産品に認定されています。

その三島馬鈴薯を 100% 使用したご当地グルメ、「みしまコロッケ」が 2008 年の誕生から 15 周年を迎えました。サクサク・ホクホク、みんなに愛される「みしまコロッケ」の 15 周年を祝って様々なイベントが開催されます。



○ボンジュール！みしまコロッケ 2023

7 月 16 日(日)午前 10 時 30 分～ 楽寿園イベントステージ
公式ソング「みしまコロッケンロール！」と一緒に踊って
お祝いしよう！先着 200 名にみしまコロッケ 1 個プレゼント

○みしまコロッケデジタルスタンプラリー

7 月 16 日(日)～8 月 13 日(日)

市内各店舗のオリジナルのみしまコロッケを食べ比べよう♪
スタンプを集めた方に、みしまコロッケグッズをプレゼント

○フोटスポット ニッセイストリートギャラリー(本町交差点)

○公式キャラクター「ころもつけ」LINEスタンプ発行 全 16 種類

三島市長	〒411-0035 三島市大宮町 2-14-20
豊岡たけし後援会事務所	TEL 055-976-2160 FAX 055-976-2159
	E-mail : toyotake@mail.wbs.ne.jp
ホームページ	http://www.toyooka-takeshi.jp/

市役所新庁舎整備について

市役所は、多くの市民が毎日訪れる市の顔となる施設であり、また災害時に対策本部が設置されることから、市民の関心が高い施設です。現在の本庁舎および中央町別館は、耐震補強を実施し一定の耐震性能は確保しているものの、建設後 60 年以上が経過して老朽化が進んでおり、大社町別館を含めた 3 箇所に庁舎機能が分散していることから来庁者の利便性や事務の効率化、円滑な災害対応に支障をきたす恐れがあります。また、3 箇所いずれもスペースが不足していて、市民の受付窓口、執務室が狭いほか、会議室・倉庫なども十分に確保できないなど、セキュリティやプライバシーの確保、バリアフリー化への対応も不十分となっています。敷地内の駐車場は慢性的に混雑しており利用者はもとより周辺への悪影響も懸念されます。加えて近年では、デジタル化された情報通信技術への対応や、新型コロナウイルス感染症などを考慮した対策など、新たな課題も生じています。

市では平成 23 年より市庁舎整備について様々に調査・研究を行った結果、現庁舎施設については、多額の費用を投入し大規模改修を実施したとしても、狭隘や分散による利便性や事務の効率低下、円滑な災害対応等に関する課題の解決が見込めないことから、新庁舎整備が必要と判断し、平成 28 年 5 月に「新庁舎整備庁内検討委員会」を設置しました。同時に市議会でも平成 28 年 9 月に「市議会公共施設等マネジメント検討特別委員会」が設置され、公共施設等のあり方について多くの議論が行われ、平成 30 年 2 月には「新庁舎整備は、目標年度を設定し、施設規模や他施設との複合化、建設場所、経費節減等について研究を進める必要があること、建設基金としては、20 億円を目標に計画的に積み立てを行うべき」との提言をいただきました。そこで、令和 2 年 3 月に策定された公共施設保全計画において、現市庁舎施設の使用終了予定を令和 13 年度と定めて、庁舎機能を統合した上で

さらに本庁機能と同じ建物にあることで利便性の向上が期待できる施設の複合化、計画的な建設基金の積立の実施を前提として、「市民アンケート」や「市民ワークショップ」等での意見やこれまでの調査・研究を基に新庁舎整備についての複数の事業案を作成し、令和 5 年度「新庁舎整備検討委員会」を立ち上げ検討に入ったところです。

現在の大まかな方向性として、候補地を現在の北田町と南二日町広場に絞り込み、市政 90 周年である 2031 年度の供用開始を目指して新庁舎建設の検討を進めています。また、新庁舎建設の検討にあたっては、次の点に考慮します。

- ・本庁機能の統合および本庁機能と同じ建物にあったほうが利便性が高い施設の複合化
- ・「市役所に来る必要がない市役所」をコンセプトとする、AIなどを積極的に利用した市民サービスへの移行
- ・ペーパーレス 100%、休日や夜間における会議室の利活用、省エネ、面積のスリム化
- ・市民が気軽に立ち寄り、いつでも憩える空間、まちの魅力を高める庁舎の活用
- ・民間活力の活用

今後、検討状況をまとめて、令和 5 年 9 月に市民の皆様からのパブリックコメントを募集します。さらに議会の要望もいただきながら「新庁舎整備検討委員会」で基本構想（案）の策定を進めていただき、令和 6 年 2 月には、整備地も含めた基本構想（案）について 2 回目のパブリックコメントを実施する予定です。

三島市ホームページでは、これまでの経緯、課題、事業案のメリット・デメリットなどを詳しく説明しています。ご覧ください。